早大教授　竹野長次先生新著

擬古文新釋

三六版四百四十頁
定價金一圓五十錢
送料金八錢

本書は德川時代國文學者の文章の粹を蒐め、それに親切な解釋と國語譯とを施してある。最近各高等學校の試驗問題がこの擬古文を中心として提出されてゐる事は今更ら言ふ迄もない、又擬古文學が德川時代に於ける文學の一流派をなしてゐることも勿論である。擬古文の研究は國文學研究の入門でもあり。國語研究の初步であり、また受驗準備の捷徑でもある。著者の解釋の丁寧なる、痒い所に手のとゞくやうであるのみならず、博引傍證、一語一句と雖も等閑にしない學者的良心に至つては敬服の外ない。敢て本書を江湖の諸賢に薦める所以である。

早大教授　竹野長次先生新著

新釋十六夜日記

三六版二百四十頁
定價金一圓
送料金六錢

十六夜日記は鎌倉時代に於ける記行文の一で、和歌の師範家である藤原家の後妻、阿佛尼の作になるもの。言ふ迄もなく尼佛尼は、子に對する純眞の愛情に動かされて遠く、女性の身を以つて、鎌倉に下つたのである。この母性愛が本書全體に溢る情調である。「未來への奉仕」とか「母性愛」の强調せられる今日、本書を讀む事によつて如何に數百年の昔に吾等の祖先が母性愛に燃えてゐたかを知る事が出來よう。今回弊店の乞ひにより著者は積年の蘊蓄を傾け本書の爲に解釋の筆をとられた。識見の高邁解釋の穩健妥當引、例の該博なるは既に定評がある、今更ら贊するを要しない。

發行所　東京府戸塚町下戸塚十三（早稻田大學舊正門前）

上田泰文堂

電話牛込四〇〇五番
振替東京五五九四一番

312
276

終